礫陵新聞

発行所
若松高校新聞部
福岡県若松市西畑町
発行人　日並　勇
編集人　古財弘之
印刷所
関西印刷株式会社

若松銘菓
五平太船
かつぱ川太郎
ときわ
明治町銀天街
電話⑦二〇〇四・四六五六
五四四六

# ラストスパートに入った

## 就職 進学

高校における新年は就職と進学への関心から始まるといつても過言ではあるまい。就職は毎年求人の三分の二がすでに受付けを終り、進学は最後の志望校選択が完了した。三年にとつてはもう一歩もひけぬどたん場に入つたわけだ。これからのフストスパートをどの程度きかすかによつて、本年度若高の教育の一応の成果を決定することになる。それだけに本人はもとより、地域社会も学校もあげてその動行を注目することになる。三年生の正月は四月だといわれるゆえんもそこにあろう。また一、二年生は過去の実績をひつさげて、新しい学年への胎動を始める。単位の獲得の困難なものはこの三学期にすべてかけるであろうし、クラブ活動もいよいよ中心勢力として推進する責務を負わされる。そして思いは同じく三年生の成否に注がれるわけだ。

# 就職戦線異常あり

## 昨年に比し一五%の減

### 痛い「力」不足

昨年終業式の時学校長から話された昨年中の就職状況をもう一度ここに再録して、ラストスパートに入つた今年の就職への決意を新たにしたい。

まず三十一年末と昨年末までの求人件数対採用決定数の比率は、三十一年が、七四%弱であつたのに対して昨年末は五九%強と約一五%の減退を示している。これが以後二月末までの見通しでは、三十一年度が六二件の求人数をもち以後一〇四名の決定者をみたのに本年度はどの程度求人を期待出来るかは、担当の先生方も全く見通しがつかないと言つておられる現状で、有望二七名の裏付けはあるといえ、それでも合計八〇名程度にしかならず、昨年度に比して半数就職しか望めないのではないかとみられており、いうなれば「就職戦線異状あり」といつた具合である。

この原因は第一に、昨年九月以降どつとおしよせた求人に対して各自がその選択に戸迷いして適切な対策をたてる機会がなかつたこと。このことはむしろぜいたくすぎる話で、求人があまり多く殺到したため、かえつて就職のチャンスを失したというに等しく、やはり決定的には「力」不足がその最たるものであろう。例えば求人があつたにもかかわらず、全滅したのは住友、富士、三井、福岡各銀行男子を手始めに、安川電機、安田生命、上野商会、日商商会、八幡製鉄、三井船舶、大和証券、栗田工業、東海電極、山口相銀、三洋石炭工業、朝日新聞等いづれも商業科男子に対する求人に失敗したことと、普通科の場合でも男子が著しく立おくれたことに主たる原因を見出すことが出来る。

第二に、いわゆる「菜葉服精神」に欠けていたこと。背広と革カバンとアベツクをサラリーマンの現実と錯覚する甘い考えが就職希望者の中にありはしないか。最近とみにふえてきた中小企業からの求人に対しても、今日ほど事態が切迫しているにもかかわらずそつぽを向いている傾向の見られるのはその実例である。

第三には学校としても職場開拓に十全を期せられなかつたこと。今年のように一時に求人が殺到すると指導に当られる先生方は書類作りと選考会議に追われて、足を外に向ける余暇に恵まれない。最近安田先生始め一、二の先生方が少しづつ職場開拓に出かけられているが、その効果はてきめん、求人をもつて帰つて来ておられる。新年に入つてから一層この方法を強化されるということだからその面から少しは期待がもてるだろう。

第四は、第一番目と関係あることだが、学校に求人の来ない会社工場に対する縁故採用の運動は大いに奨励するが、学校に求人のあるものに対して、少しの「コネ」を理由に希望者が殺到して自滅作用を起していること。これは「コネ」によらねばとか、「コネ」さえあれば何とかなるといつた「コネ」中心主義的な考えが実力の充足を怠らせていることに原因があると思われる。問題は実力を蓄えた上で「コネ」で補強するといつた順を追うべきで本末を転倒しないことが肝要と思われる。

要するに今年度の就職は、こ一、二年前に比べて大きく後退するものと思われる。これに思いを至して現在の三年生はもとより、二年、一年の下学年生も今からすぐ将来への設計をたてるべきだと思う。（よ）

## 九電に森田君（三B）ら

本紙五〇号に掲載した以後の主なる就職内定者は次の通りである

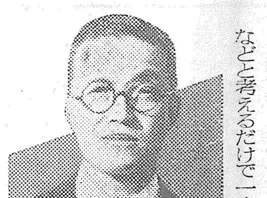
| | | |
|---|---|---|
| ▽三菱商事 | 三ノ四 | 志水　直子 |
| ▽富士銀行 | 三ノ四 | 友枝　絹子 |
| | 三ノ二 | 力丸千賀子 |
| ▽福岡銀行 | 三ノ二 | 宮本美恵子 |
| ▽正金相互 | 三ノB | 生熊　健 |
| ▽安川電機 | 三ノ三 | 井上　永子 |
| ▽日本水産 | 三ノA | 芹田　完爾 |
| | 三ノ三 | 北村　君子 |
| | 三ノA | 青柳　孝治 |
| ▽井筒屋 | 三ノB | 小田　英夫 |
| | 三ノB | 富田多美子 |
| | 三ノA | 白石　艶代 |
| | 三ノ二 | 土谷　静子 |
| | 三ノ四 | 矢島いつ子 |
| ▽福岡相銀 | 三ノB | 林　勝徳 |
| | 三ノ三 | 玉江　孝子 |
| ▽九電 | 三ノB | 森田　忠資 |
| ▽玉屋 | 三ノ三 | 船津千佳子 |
| ▽鶴丸運輸 | 三ノB | 森山新一郎 |
| ▽扇興運輸 | 三ノB | 小田　幸治 |
| ▽板硝子 | 三ノ一 | 大村美恵子 |
| | 三ノ五 | 土谷　和子 |
| ▽古河鉱業 | 三ノ二 | 田中　喜好 |
| ▽博多大丸 | 三ノA | 船津　洋子 |
| ▽三洋石炭 | 三ノA | 岡　宗市 |
| ▽日立金属 | 三ノ二 | 本田　雅子 |
| | 三ノ一 | 森　満州美 |
| ▽二島海運 | 三ノA | 山下　孝徳 |
| ▽大洋海運 | 三ノB | 川上　武久 |
| ▽三井鉱山 | 三ノA | 伊藤　康子 |
| | 三ノ三 | 安藤　章子 |
| ▽林金物産 | 三ノA | 小田　秀甫 |
| ▽黒崎窯業 | 三ノ二 | 藤田　妙子 |

## 年頭所感

学校長　加来　均

# 生活に直結した行事

## 少年の頃への回想



「一年匆々又新年」と誰やらの詩にあつた様に覚えるが、正月を迎える毎に此の感は一層深いものがある。

会議だ陳情だと、一年中学校を留守にすることが多いだけに時にはゆつくり校長室に落ちついて書物を読んだり、或は生徒諸君と膝を交えて話をする時間が得られたら愉快だろう――などと考えるだけで一向に実現出来そうにもない現状を学校長と云う仕事に味気なさを感じることもしばしばである。

そして又生徒の顔を見る度に尻を叩く様なことばかり言つて居るが、時にはぼんやり雲を眺めたり小鳥の声に耳を傾ける時間もあつていゝのではないかと思う。だから「訓辞」の代りに暢気な話を書いてみたくもなる。

× ×

一年前浜谷浩さんが出した「雪国」と云う写真集を買つた。雪に埋れた新潟県の日本海に添つた田舎の年末から春にかけての行事を辛棒強く永い時間をかけて撮つたものである。戸数四五十の小さな部落を中心に集められた行事の悉んどが農耕を中心にして神々に豊作を祈願する信仰形式のものである。見て行く中に私の少年時代にやつた記憶のある行事で、今は全く滅び去つて了つているものゝ多いのに驚いた。

私の家は農家である。私の少年時代には祖父母も元気であつたし部落の中でも可なりな百姓であつた。本当の田舎で年の瀬が迫つても別にざわくすることも無く、唯餅を搗いたり注連飾を作つて夜なべをしたりするので正月が近づいて来る足音を感じたものである。いよく大晦日が近くなると祖父が手頃の青竹を切つて来て笹を藁で束ねた土竜叩きを作つてくれる。私と弟はそれを持つて表から裏へ屋敷中を叩いて廻る。肌寒く暮れて行く空気を裂いて隣でも前でも友達の打つているバタンバタンと云う音が今でも耳に甦つてくる。

この前後から子供には子供のいろんな田舎めいた行事が続いてくる。一番辛かつたのは一月十一日の鍬初め行事だつた。ゆり起されて目をこすりく外に出てみると闇の底に霜が冴えて刺す様に感じる。祖父は牛を引いて鍬を担い、小さな私と弟も股引をはかされて鍬をかついで田圃へついて行く牛は永いこと休んでいたせいか時々ピヨンく跳ねる。これを追つて行く祖父の後からかじかんだ手に息をふきく田圃に着くと祖父は牛に鍬をつけて一畦だけすいて私達には一鍬土をすくわせる。それでお了いにして帰つて来る頃にほんのり夜が明け初める。すると部落の方から青年が裸馬に乗つてパツくと飛ばせて来る。これは馬を飼つてある家では矢張り馬の出初めをする訳である。

少年の頃には何の為にこんな事をするのかさつぱり判らなかつた。たゞ寒い思いをするだけで、帰つてから食べる熱い雑煮が楽しみであつたに過ぎない。

此の頃になつて民族学者の採集した民間行事の記録を見て行くと農業生産を主体とした社会生活では、米の豊凶が如何に重大な問題であり従つて米作そのものが神聖な信仰行事と結びついていたかゞ痛い程わかつて来る。

時代が移り国民生活が変つて来ると吾々の祖先の生活に直結していた重大な行事もだんく忘れられて行く。私達が少年時代にやつたことを今の子供達は最早全然知らない。生活の様式が変つて来たのだから当然だとは云えるが、せめてこれが煙滅しない中に正確な記録を残して置きたいものである。これは単なる回顧趣味ではなく、現在の社会を築き上げた基盤を究明することにつながる仕事だからである。

## 論説

# 生徒会を活発に

新年を迎えた今、昨年の出来事を振り返ると共に新しい計画を立てよう。本紙五十号を発行した後好評を得た運動会があり、次に生徒会役員改選が行われた。生徒会といえば昨年の生徒会の動きはどうだつたろう。全校生徒委員会は一ケ月に一回の割に開かれるはずなのにそんなに多く開かれただろうか。悪くいうならば、いわゆる年中行事のためのしかもほんの形式だけの生徒委員会が開かれたにすぎないではないか。これでいて生徒の関心が薄いとか、もう少し熱意を持つて生徒会に参加してほしい等というのは少し虫がよすぎるのではなかろうか。生徒会に関心を持つてくれと呼ぶかわりに、生徒会をもつと活発に、いいかえると生徒委員会をもつと多く、そして我々学校生活に身近かな問題を取り上げて論議し「自分達についてこい」という勢いで生徒会を運営していかなければ、絶対に生徒の各々に生徒会の存在を認識させる事は不可能ではなかろうか。それにも増して我々クラスの代表者たる総務、庶務の会議に於ける態度はどうだろう。会議そのものは実に静かで一人の発言もなく、ただ形式的に、手を上げたり下げたりする械械人形の様であるし、またクラブにもち帰つて決つた事を流す事さえしない。これでは生徒委員会で何が行われているか、まるで見当が付かない別世界のように感じるのも無理のない話だ。

このように火のつかないマッチのような生徒会であるのを火が付くようにするにはよほどフアイトがある生徒会長の出現を待つより他に方法はなかろう。所が、本紙一面に座談の形で生徒会役員の抱負を聞いてみると、希望は大体生徒会完成の線に沿つている。したがつてこの望み通りに実現すればかなり活発な生徒会が築き上げられる事になる。そこで新年に当つてまず自分のスローガンを強い意志で最善を尽して実行に移していただく事を希望するものだ。

十月三十日には演劇発表会、弁論大会が南校講堂で行われたが、本校演劇部の創作劇「鐘乳洞」が北九州地区で入賞、県大会では悲劇喜劇賞をもらう等、若高演劇部の存在をはつきりと県下に認識させたのは実に愉快な事である。また弁論もなかなか盛んではあるが部員不足で困つているようだ。クラブ活動は一般的に見て低調であることは諸君も十分御承知の通りだ。やはり進学就職が気にかかつてクラブ活動に熱が入らないのだろうか。三年生はそうでないにしても一、二年はもつとじつくり部と取りくんで、高校生活に何か自分はしたぞと確信がもてるまでやり通してもらいたい。

次に二年生の修学旅行が十一月十日から行われた。例年先生方の心配の種であつたこの修学旅行も日程が無理であつたにもかかわらず例年にない立派なものであつた。十一月二十二日には校内マラソン大会が決行されたが、やはり修学旅行のために二年生は全般的に悪かつたが、これも参加者も多くなつており一歩上昇した様だ。

以上が昨年の主な行事であつた。ここで今年の焦点をしぼつて行こう。まず第一に生徒会を活発にする事。第二に昨年一時美化委員会、保健委員会が活動していたが、近頃はまたもとの木阿弥になつているようだ。これをもう一度盛り上げる事。第三にクラブ活動をもつと活躍させる事等が上げられる。新年から悪口ばかり述べたようであるが、右に上げた三点だけはしつかりと各自の胸にしまつて、常に若高生としての誇りと自覚を失わず、三年生は就職、進学に、一、二年生は勉学に運動に大いに活躍し、福岡県に若松高校ありという名声を獲ち得るように努力されん事を願う。（H）

# 新役員をかこんで

## 生徒個人の自覚を促す

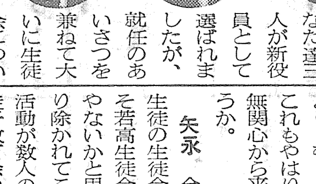
## 親しみある生徒会に

海原　会長
秋武　副会長

☆…昨年末本紙編集室で約一時間生徒会新役員との対談を行つた。…☆
☆…これは過日行なわれた生徒会新役員改選の結果報告及び新役員…☆
☆…紹介を兼ねて行われたものである。出席者は海原生徒会々長、…☆
☆…矢永、秋武両副会長に新聞部員五名の計八名であつた。以下は…☆
☆…その時の模様で質問は部員が交代で行つた。…☆

## 生徒の無関心を打破

矢永　副会長



（写真は右から海原、秋武、矢永君）

――改選の結果あなた達三人が新役員として選ばれましたが、就任のあいさつを兼ねて大いに生徒会について、語つていただきたい。と思います。

**海原**　今度、会長となつたわけですが、今度の場合、二年の学年委員会の推薦で立候補したわけで、自分から立候補しようとは思つていませんでした。だが、私も選ばれた以上は、私の考えで生徒会を運営していきたいと思います。ある友達から、「中学時代の生徒会と比較してみてどうだ」と質問を受けたことかあるのですが今の若高の生徒会の方が中学時代より、むしろ低調だと思います。これもやはり、生徒の生徒会への無関心から来るのじやないでしようか。

**矢永**　今会長さんのいわれた生徒の生徒会への無関心、これこそ若高生徒会活動におけるガンじやないかと思われます。これが取り除かれてこそはじめて生徒会の活動が数人の活動ではなく若高生徒千数百余の活動となると信じます。それで会長さんの手助けをし出来るかぎりの努力を試みたいと思つております。

**秋武**　二年になつてから生徒会に関係しましたけれども、最近とくに生徒の生徒会への無関心ということを強く感じました。またクラスの代表でも、自分という人間を引つこめて、人間の顔をした人形となりすまして、自分の意見を述べようとしないのです。それが特に女子の場合に強くいえると思います。

――では、その欠点すなわち、生徒の生徒会への無関心を改めるにはどうすればよいでしようか。

**矢永**　フオークダンスの会や山登りなどを生徒会が先にすすんで行い、生徒に生徒会が高嶺の花的な存在じやないという感じをもつてもらうようにしなければならないと思います。

**海原**　生徒会の傍聴を奨励することも一つの方法じやないかなあ。

**秋武**　今まで生徒会の開き方が少ないのではないでしようか。それで自然と生徒の関心もうすれて行くのだと思います。それで月に一回は必ず生徒会を開いたらいいと思います。

――話は少し変りますが、現在のクラブ活動の動きがにぶくなつたと聞いておりますが、どうでしようか、皆さんの御意見は。

**海原**　私は今相撲部に入つていますが、私の友達で現在クラブに所属し、実際にやつている者が何人いるでしよう。数える程しかいないのです。また、入つている者でも少にでも受験勉強の邪魔にならないようにというような考えですから、このような所からクラブ活動が低調になるのではないかと思います。

**矢永**　私は弁論部にいますが三年生を除くと私一人だけです。このような状態からも不活発となるのではないでしようか。また一部では部が多すぎるのではないかといわれますが、私は多いとは思つておりません。

――新年を迎えるにあたつて、これからの生徒会についての抱負を述べていただきます。

**海原**　現在の生徒会を生徒一人々々の〃自分は若高生徒会の一員である〃という自覚の下に築かれた生徒会に育て上げたいと思います。

**秋武**　私は副会長としての役目を責任もつてはたし、今の生徒会を楽しい、親しみのある、皆の生徒会にしたいと思います。

**矢永**　私も前の二人と同様に〃あの生徒会は自分達の生徒会なのだ〃といわれるような生徒会にするように努力したいと思います。

# 決定した志願校選択

## ※※※私立が国立を上廻る※※※

## ※※※※トップは九大の29名※※※※

## 昨年より一歩前進を

騒がれた神武以来の好景気も、すでに深刻な不況の風が吹き始めたようで、楽観を許されそうにもありません。昨年の進学戦線に眼を転ずるとき、大学志願者数が国立では五万人も減じ、私立では三万人も増加しているが、合格率を調べてみるとき国公、私立大ともおしなべて浪人の合格率が更に一段高くなつて来たということである。

（螢雪時代八月号口絵参照）。このように冷酷極まる受験界に身を投じている三年生には正月はない。栄ある合格通知を手にしたときこそ、真の正月といゝうるであろう。三ケ月後には決戦の矛を交えなければならない時が、刻々として迫つている。礫陵健児の意気を示すべく日夜、励んでいる姿を想像するに、まことにたのもしい限りである。どうか今年が最良の年でありますように。

例年の如く志望校の最終的決定をみたので本紙を借りて紹介しよう。

全国に数ある大学を前にして何を基準にして大学を選択すべきだろうか。その主なものを考えてみよう。

(1)自分の興味適性
(2)通学の便（自宅、下宿）などの経済的理由
(3)就職問題
(4)家人の意向
(5)自分の実力と入学の難易
(6)大学の内容

この中、特に(5)(6)は自分の頭だけでは解決出来ない問題であり、適当な人なり参考書なりに相談しなければならない。これ等のことはすでに充分に慎重に検討されているのではなかろうか。

要は、今後二ケ月間の活用如何にあるのであつて、必死の努力を試みてこそ栄冠は勝ち得られるのだ。昨年の卒業生よりも更に一歩前進しよう。（森元哲郎―進学指導委員）

(1)進学希望者数

| | 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|---|
| 1 | 4 | 14 | 18 |
| 2 | 2 | 3 | 5 |
| 3 | 3 | 8 | 11 |
| 4 | 2 | 10 | 12 |
| 5 | 37 | 5 | 42 |
| 6 | 37 | 7 | 44 |
| 7 | 38 | 5 | 43 |
| A | 1 | 0 | 1 |
| B | 3 | 0 | 3 |
| 計 | 127 | 52 | 179 |

(2)大学別志望者数（第二・第三志望を含む）

| 種別 | 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|---|
| 国立 | 108 | 17 | 125 |
| 公立 | 16 | 8 | 24 |
| 私立 | 113 | 19 | 132 |
| 短期 | 0 | 23 | 23 |
| 各種 | 3 | 14 | 17 |
| 計 | 221 | 81 | 240 |

(3)三名以上志望校大学名

| 種別 | 大学名 | 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|---|---|
| 国立 | 東京大学 | 3 | 0 | 3 |
| | 京都大学 | 3 | 0 | 3 |
| | 大阪大学 | 3 | 0 | 3 |
| | 神戸大学 | 5 | 0 | 5 |
| | 山口大学 | 10 | 0 | 10 |
| | 九州大学 | 25 | 4 | 29 |
| | 九州工大 | 27 | 0 | 27 |
| | 福岡学大 | 6 | 11 | 17 |
| | 長崎大学 | 5 | 0 | 5 |
| | 熊本大学 | 5 | 2 | 7 |
| | 宮崎大学 | 4 | 0 | 4 |
| 公立 | 北九州大 | 21 | 0 | 21 |
| | 福岡女大 | 4 | 7 | 7 |
| 私立 | 早稲田大 | 6 | 0 | 6 |
| | 慶応大学 | 4 | 0 | 4 |
| | 明治大学 | 12 | 0 | 12 |
| | 日本大学 | 5 | 0 | 5 |
| | 立教大学 | 4 | 0 | 4 |
| | 成蹊大学 | 3 | 0 | 3 |
| | 武蔵工大 | 3 | 0 | 3 |
| | 国学院大 | 1 | 2 | 3 |
| | 青山学院 | 2 | 1 | 3 |
| | 昭和薬大 | 1 | 3 | 4 |
| | 同志社大 | 7 | 1 | 8 |
| | 立命館大 | 4 | 0 | 4 |
| | 福岡大学 | 12 | 0 | 12 |
| | 西南学院大 | 6 | 0 | 6 |
| | 久留米大 | 4 | 0 | 4 |
| 短期 | 西南女学院 | 0 | 9 | 9 |

（何れも十二月一日現在）

# 十周年を迎えた郷土研究会

＝研究紀要第九集は近く刊行予定＝

先生方の研究会である「郷土研究会」では今年で創立満十周年を迎えられる。昭和二十三年現豊津高校長瓜生先生を中心に発足したこの会はその後社会科、理科、国語科の諸先生約十名で、毎年その年間の研究成果を「研究紀要」にまとめて発刊されてきたが、第九集は十周年記念事業への足がかりとして、「岩屋の総合調査」を中心に鋭意研究が進められており、昨夏以来、吉開、石丸両先生の共同研究による「岩屋の生態地理学的研究」が調査の半ば以上を終り冬休みを利用して、ほゞ集計の段階に入つたのを皮切りに、岡野先生の「言語調査」、赤司先生の「植物分布」今泉先生の「近世以降の漁業史」岩尾、二十二両先生の宗門改を中心とした古文書の解読等、一月中には出版の運びまでこぎつけたいと会長の吉開先生は語つておられる。

なお今年度予定される「十周年記念行事」のスケジュールは、第九集出版後改めて検討されることになつている。いづれにしても本校が県下に誇る「郷土研究会」が依然健在で今年はそのエポツクを画する年として注目されている。

# 高校入試

## 三月十四・十五日に

昭和三十二年公立高等学校の入学者選抜要項が昨年末発表された。これによると、学力検査をうけるものは、三月三日まで志願高校に出願する。学力検査は三月十四十五の両日一斉に行われ、三月二十四日、合格者の発表となつている。昨年までの例によると、本校でも普通科、商業科とも相当激しい競争が予想され、われわれの後輩へ限りない声援を送りたいものである。

## 礫陵言

今年は戌年だというので、年賀状やカレンダー類に犬の版画や漫画がもじつてあり、おもちや屋さんでは犬の張り子がよく出るとも聞く。ところで「戌」というのはいうまでもなく十二支の第十一位、来年は「亥」で、また新しく「子」の年からはじまるわけだが、小十二支ということを漢語辞典でしらべてみると次のように記されている。▼陰暦にて年月日時の称又方角にもいふ。十干と併せて干支（えと）という。我国にてエトといふは兄弟の義、干支は幹枝にて兄弟の如しといふ意ありとぞ。木火土金水の五行を各兄と弟に分ちよぶ即ち木兄（甲）木弟（乙）火兄（丙）火弟（丁）土兄（戊）土弟（己）金兄（庚）金弟（辛）水兄（壬）水弟（癸）と分ちて相配す。之を十干とし此十干と十二支とを甲子、乙丑等と配合して六十配をなし、暦の年月日等に当て用ふ。云々。と。▼人工衛星やICBMがとび交う世の中に、いまさら戊戌でもあるまいにと思うかもしれないが、大道では結構姓名判断や易が商売になる御時世とあつてみれば世の中は狭いようで至極広いものだともいえる。▼ところでこういつた古いものへの傾倒というものは現実の社会が汚濁にみち、人間の精神が停滞を極めるとき、それへの反撥としてあらわれるもので、いわばロマンチシズムに通ずるものがある。中国がその近代化のためにあまりに古代的な大清帝国を倒した民国革命は、革命のおこつた年の呼び名にしたがつて、辛亥革命と命名された。孫文のかかげた三民主義のイデオロギーを受けつぎマルクス・レーニン主義で武装した毛沢東が政権を担当して後直ちに明らかにした政策の一つは「民族文化の復活」であり、郭抹若の描いた孔子孟子の像は、儒教を単に封建遺制を存続させる教義としてではなく、社会を救済し、民生を尊重するものという観点から、その伝導のために積極的に遊説して歩く人、指さきについた粥のいく粒に涙を流し、美しい妻に圧倒される愛情の持主として見直されている。こんなところにも中国の今日の生長の一要素がありはしないか。▼グラマー女優の脚線美が若い人達へ大胆に挑戦し、カリプソがアメリカでもてはやされるといつては、それらになづんでなんの反撥も感じない感覚は、生活に根ざした叡智の産物としての、現代にまで根強く伝わつている文化遺産へ眼を転ずることで犬に食わしてしまつてはどうか。学園というものはそうした場である。▼もう一度漢語辞典にもどつてみると、「支」という文字の字源にこのように書いてある。十と又の合字。十は竹の半分にて其のエダを示し又は手の義。即ち手に竹のエダを持てることを示す。是れよりエダ・ワカル等の義出で転じて宗家に対する分家等すべて分出せしものの称とす。と。まことに意味深長というべきである。最近とくにめだつことは、作文や試験の答案に誤字、あて字の多いことである。字にはそれぞれ意味がある。われわれのつかう漢字は意味文字なのだから、よくそのことを頭において、今年は学園あげて文字を正確におぼえる運動をおこしてはどんなもんだろうか。そんな悠長なことをいつておつては入学試験に間に合わぬといわないで、犬も歩けば棒にあたるという諺を思いおこしてもらいたいものだ。（よ）

多少にかかわらず
配達致します
―ベニヤ板・竹材・各種材木の―
合田材木店
若松小学校前
電話⑦三六〇九番

☆☆☆☆ 謹　賀　新　年 ☆☆☆☆

何時でも何処でもすぐ参ります
全日営業•配車迅速•サービス第一
東洋タクシー
社長　森重　四郎
堺町営業所　TEL ⑦2469番
⑦2348番
藤の木宮丸営業所　⑦4810番

今年はまづ
メガネ・視力の再検討
検眼室完備
メガネの　愛智成光堂
本町七丁目　電話⑦3310番

冬を楽しく暖く！
ストーブ•コンロ
大工道具•家庭用品
その他金物一切
阿部金物店
本町四丁目
TEL⑦三一〇七番

# 今年のクラブ活動のホープさん

クラブ活動の低調さがことごとに叫ばれているおりから、昨年末二、三の部では、その根強い精進のすえ、再び脚光を浴びようとしているものもある。ここにとりあげた部は、それぞれなんらかの成果をあげたものにとどめたが、低調だ、しかたがないという掛声の中から、立派に抜け出している部もあるということを知つてもらうため、題して「今年のクラブ活動のホープ」とした。

## 演劇部◇◇◇◇

### 創作劇へ踏み出す

今春の演劇部のスタートは、はなはだ、おぼつかないものであつた。部員数二十名を割るなんてことは、演劇部創立以来、かつてないことであつた。それにはいろいろの原因が考えられるが、その主因は、人間対人間の魂のブツかりあいという労力を抜きにしては、成立し得ないという、演劇自体の宿命を、此の試験の洪水のようなセチガライ高校生活の中にあつて堪えきれなくなつて来た為であろう。

ともあれ、六月頃から、昨年度の演劇部員の在り方を反省しながら、その生活の場を舞台として、部員全員で「鐘乳洞」の集団創作にかゝつた。その成果を、対外的に問うたのは、十一月の北九州地区高校演劇コンクールであつた。

ここでは、高校生の身近な生活を土台にした点と、アンサンブルの見事さ、新鮮さが認められて、北九州地区コンクール史上、初の創作劇入選という栄冠をかち得た。

続いて、十二月一日、大牟田市市民会館で行われた、福岡県高校演劇中央発表会に於ては、やゝもすれば、テクニシャンに落入りやすい現在の高校演劇界にあつて、その方向づけの正しさを認められ悲劇喜劇賞を得た。その夜、演劇部員の顔色は、希望に満ちた輝きに溢れ、何時になく、今後の、演劇部の在り方について、深更まで語りあつた。今年はまた新たな立場から一層の精進を試みたいと思つている。（つ）

## 再び擡頭するか

### 剣道部

剣道部は一昨年までの輝やかしい伝統を忘れたかのように鳴かず飛ばずの状態で、一昨年末から昨年末までは、地区予選にさえ優勝できないといつた低迷をつゞけてきたが、この間山崎先生のたゆまぬ指導で徐々に頭角をあらわしはじめ、ついに昨年末の地区新人戦では予想に反して、一年生を主力とするBチームが初優勝し、再び福岡県高校剣道界に波紋を投ずるのではないかとされるに至つた。

新人戦の記録を追つてみると、十二校十八チームが四パートに分れてリーグ戦を行い、その勝者がトーナメントにより覇を競つた、Aパートでは東筑、B若高B、C豊前農、D常磐Aと、本校Aチームはリーグ戦で早くも姿を消すといつた不甲斐なさで、関係者を落胆させたが、決勝トーナメントに入つてから、Bチームが予想外にねばり、東筑を3-2の接戦で破つたのち、常磐Aと当つたが、この試合では常磐の誇る塩塚、石山薬内といつた常勝猛者連を、本校一年の上田、坂本、波多野の中堅陣で一方的にしりぞけ、副将片岸が一敗したのみで、二年上田は、県内ナンバー一と目される薬内に一指も触れさせず楽勝するなど圧倒的にこれをほおり、俄然場内を沸かせた。これで昨年まで北九地区において常勝を誇つた常磐、築上勢に完勝を博したわけで剣道部の今年度に期するところ大なるものがあるようになつた。しかし一まつの不安はやはり、Aチームの低迷で山本、北村、河村らの奮起がのぞまれている。（よ）

## ラグビーも有望

ラクビー部にとつてやつと明るい年がやつてきた。それは現在二年生の勇敢な選手がそろつたからである。その最も良い現われは北九州の新人戦にみられる。

十二月二十二日からはじまつた地区リーグ戦では小倉工業のグラウンドで東筑と対戦し23対〇で完勝し、二十五日九工との戦いは20対3で勝ち、二十七日門司東と試合するはずだつたが、不戦勝という連勝で選手も大いに張切つている。一月十二日には八幡も破り十五日の決勝戦にのぞむのであるが、現在では優勝は確定的だ。顧問の日野先生は大いに期待をかけ、先輩とともにいまはシーズンのさ中であるだけに鍛え方も熱が入つている。キャプテン中川君の話によると、今年のねらいはどうかして県大会で優勝したい。それにはまだ練習が少し不足しているが試合はもちろん練習にも力一ぱい頑張つてきつと皆さんの期待を裏切らない様に努力しますと力強く語つていた。

## 全国大会出場なるか

### 籠球部

元旦から白山神社まで往復二回も走り、激しい練習が始められている籠球部はそれもそのはづ、十一月二、三、九、十日に八幡高校で行なわれた北九州地区大会新人戦には男子は堂々優勝している。又、現在西日本大会予選が八幡高校で行なわれているが、女子部員五人しかいないにもかかわらず大いに活躍している。十二日の決勝戦には優勝候補の戸畑高校と対戦したが惜しくも敗れ二位となつた。一方男子は五日から行なわれが、三位と決まつた。しかし県大会出場の資格を得ている。したがつて毎日猛練習が行なわれているわけだが、籠球部の悩みの種は、予算が不足する事と、選手が皆な背が低く過ぎる事にある。籠球に於ては身長が高い方が有利である事はいうまでもない。したがつて本校では走つて勝つというチームにしなければならないわけだ。それだけに指導の永野先生も大いに苦心しておられるが、今年はどうでも全国大会に出場したいと語つておられる。

## 排球部は

## 黄金時代

十一月三日本校で行われた新人地区大会に於ける本校排球部の活躍は目ざましく、強敵小倉高校と決勝戦を争つた。一セットは二十一対十八で勝ち二、三セットは同スコアで負けて惜しくも準優勝できなかつたが、二年生八名もいる関係上今後は有望である。県大会優勝も決して夢ではない様だ。

## 土台のできた

### 野球部

野球部に対する本年度の生徒、父兄の関心は大きい。それは目下体育後援会の発案でグラウンドの整理、拡張が行われているし、片山先輩の名コーチの下に部員一同張り切つて寒風もよそに練習に励んでいるからである。部員と云えば、昨年は三年生の選手が足らなかつたが、今年は二年生一年生が進級して大いに活躍する事だろうと大いに期待出来る。昨年までで一応野球部の基礎は出来たわけである。したがつて今年は今まで低調であつた野球部に本当に春が来た様な年である。

野球部の状況を定司先生は聞いてみると、「今最も期待出来る選手は瀬川投手であるがまだ一年生ではあるが今年は少しはなれるだろう。なにしろ部員が不足であるので新入生の入部も期待している何にしても片山コーチの下で、皆な良くしまつて、力一ぱい練習してくれることを望む」との事である。どうか今年こそ北九州大会で優勝してもらいたいものだ。

## 明年度から緩和されるか

## 修学旅行の制限時間

昭和三十二年度の修学旅行は昨年十一月十日から五泊六日の日程で、大阪、奈良、京都、東京とあわたゞしいうちに、終了したが、今年度の修学旅行で最も問題となつたのは旅館泊二、車中泊三という強行スケジユールで、このことは、時間数の制限と、目的地の選定の関係からやむを得ないとして、この時間制約についてはすでに県下の各高校ともこの点を指摘してきたことで、伝えられるところによると、県教育庁でも修学旅行に関する根本的検討を加えられつゝあるとのことで、明年度からはある程度緩和されるのでないかとの見方が強い。

それにしてもこのようなスケジユールにもかゝわらず、得た収穫はすこぶる大なるものがあつたようだ。以下掲載する「感想文」二篇によつて一応の区切りをつけることにしたい。

## 感想文二篇

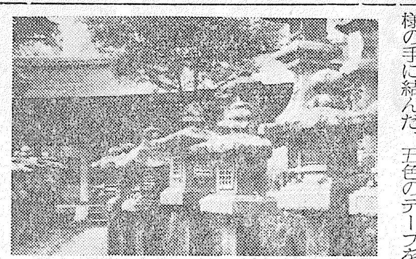
## 鳳凰堂にて

二の七　福田楸子

昔はどんなに鮮かにあたりの緑や、雪の白に映えただろうと思わせる赤い柱が、今は古びてどつしりと構えている。その上に薄い緑色を帯びた灰色の屋根瓦が、落ち着いてくつきりと、静かな水の面に映つている。木々や水とよく調和した様は、現実の事等すつかり忘れさせてしまう様である鳳凰堂。

金閣寺のきらくゝ光るのを見てなにか安つぽい感じがしたのに対して、年を経、しつとりとしたその御堂を大変美しいと思つた。年月を経て、ものさび昔を想像させる様なものの好きな私は、その条件にぴつたりとくる鳳凰堂を立ち去り難い気がした。

薄暗く、あめ色に光つた廊下を爪先を立てて歩き小さな本堂へ入る。その本堂一ぱいに阿弥陀仏がどつしりと坐つていらつしやる。金色。壁に浮彫りにされた天女達の柔かな線、神々しい光を放つたであろう天井、壁画。それらは皆華やかで、しかも古び色あせていた。「頼通はここへただ一人入り金色の光の降り注ぐ中で、阿弥陀様の手に結んだ、五色のテープを握つて、居ながらにして極楽浄土の気分を味わいました。御覧の様に、天女が音楽を奏で、天井には光を反射する銀の鏡や貝殻がつけてあります。」案内の人の言葉。平安貴族の華やかさや、頼通が仏前に小さくなつている有様を思い浮べて見る。暗くなつた日光の中で高い大きな仏陀の顔が私達を静かに見下ろしていた。穏やかな顔中にもう少し居たいなと思う内に人に押されてもうくぐり戸をぬけている。外は夕闇、もう一度池の向こう側から鳳凰の形をしていると言う建物を見る。松であろうか薄黒いよい枝ぶりの影がそれらをとり囲み、その上を又黒い夕闇のヴエール。しかし色の見えない平等院を私は、その色の見える時よりも、ずつと好きだつた。



## 古都奈良

二の七　富沢朋子

日本指おりの近代都市大阪を後に小雨けぶる奈良へ入つたのは正午すぎだつた。「嵐吹く三室の山のもみじ葉は立田の川の錦なりけり」と古歌に詠まれた立田川は雨のため幾分濁つてはいたものの紅葉の山に赤い掛橋はまれに見る好景であつた。ここが古歌で有名な立田川かと古の奈良を想像し思い浮べている中にバスは大和路を進んだ。道の両側に遠々と続いた黄金色のいね畑、切妻、白壁のどつしりした民家などはもの静かでいかにも「自分は奈良へ来ているのだ」という思いを強くした。「柿喰へば鐘がなるなり法隆寺」と正岡子規によつて歌われた法隆寺が眼前に見える。なんと雄大でおごそかなことか。聖徳太子と推古天皇によつて創建された当時のままといわれる五重塔、中門をあらたまつた気持で見ていると聖徳太子の偉大さがわずかながらではあるがわかるような気がした。幻燈では幾度もみたこの金堂を実際目の前にして何んと言い表わしたらよいのか、とにかく調和のとれた美しい姿だと思つた。又五重塔のリズミカルな美しさも現世の人はおそらくまねることの出来ないものだろう。仏像を観れば又どんなにしてこんな立派なものを刻んだのかと想像することも出来ずたゞこうごうしさに見入るばかりである。このような遺物は人工衛星の飛ぶ今日から考え宇宙旅行も簡単にされるようになるだろう将来のために貴重な文化財としていつまでも昔のままの姿をとどめておきたいものである。

奈良朝最大の遺物法隆寺や、朱塗の春日燈籠や春日石燈籠の立ち並んでいる叢林の中の春日神社、「コーコーコー」と呼べば大小の鹿が親しげによつてくる若草山も奈良の良き思い出となろう。

## 昨年より一歩前進

### —校内マラソン大会総評—

恒例の校内マラソン大会は十一月二十二日、秋晴れの下に六百八十一人の健児が参加して、南校グラウンドから童子丸折り返しの十二粁のコースを、やや暑すぎる天候にもかかわらず、元気に完走した。

今年は二年生には修学旅行の帰校直後だつたのでやや無理かとも思われたが、ほとんど全員が参加して学生らしく最後迄走り通した女子生徒は全員高校、駅前間に立ち並んで、初参加の一年生、最後のマラソンに華をかざろうと懸命に走る三年生へと……精一杯の応援を送つた。なお総合成績、個人成績は次の通りである。

「総合成績」

| | | |
|---|---|---|
| ① | 三ノ四 | 109.38 |
| ② | 三ノ二 | 244.15 |
| ③ | 一ノ四 | 264.65 |
| ④ | 一ノA | 300.47 |
| ⑤ | 三ノB | 313.33 |
| ⑥ | 三ノ一 | 319.38 |
| ⑦ | 一ノ三 | 333.29 |
| ⑧ | 一ノ六 | 334.45 |
| ⑨ | 一ノ一 | 349.61 |
| ⑩ | 三ノA | 365.24 |
| ⑪ | 一ノB | 366.81 |
| ⑫ | 二ノB | 375.48 |
| ⑬ | 三ノ五 | 380.57 |
| ⑭ | 二ノ四 | 382.54 |
| ⑮ | 一ノ五 | 388.34 |
| ⑯ | 三ノ六 | 397.02 |
| ⑰ | 三ノ七 | 412.14 |
| ⑱ | 三ノ三 | 412.85 |
| ⑲ | 一ノ二 | 422.76 |
| ⑳ | 一ノ七 | 424.15 |
| ㉑ | 二ノ七 | 438.34 |
| ㉒ | 二ノ三 | 447.27 |
| ㉓ | 二ノA | 452.92 |
| ㉔ | 二ノ五 | 465 24 |
| ㉕ | 二ノ二 | 470.48 |
| ㉖ | 二ノ一 | 476.77 |
| ㉗ | 二ノ六 | 484.79 |

（数字は平均点である）

「個人成績」

| | | |
|---|---|---|
| ①江頭　恒男 | 三ノ六 | 三二分一五秒 |
| ②岩崎　英之 | 一ノ三 | 三三分一〇秒 |
| ③山下　正治 | 一ノ四 | 三三分一六秒 |
| ④小山田信義 | 二ノ六 | 三三分三六秒五 |
| ⑤高木　昭義 | 三ノ一 | 三三分五三秒 |

—以下略—

「総評」今年はいつになく天気が良すぎて絶好のコンデイシヨンとは言えなかつたが、どの学年もそれぞれ力一杯走つて、いかにも学生らしく競技したのは見ていても非常に気持が良かつた。来年も一、二年生はこれを受けついでもらいたい。

ただ女子の応援態度が注意されていたにもかかわらず、やはり、イン・コースに立つて走者の邪魔になつていたのは残念であつた。来年はこれをなおしてもらいたいともかく、今年は学生らしくて非常に良かつた。（日野先生）

## 駅伝は一年四組の優勝

### 二年の不参加で低調

校内マラソンに引つづいて行われた一年駅伝競走は、昨年通り南校庭出発、脇田経由の8区間で行われたが、今年は二年生が修学旅行後の気分のひきしめという点から不参加となつたため、例年に比べてさびしいものになつたが、それでも参加チームは一年一組のA、Bチーム参加をはじめ一年全クラスに、商業科もA、Bクラスが別々にチームを編成したため、計十チームが参加、沿道の拍手をあびて健脚を競つた。成績は平均した実力のランナーを擁する一年四組の優勝と決つた。記録的には昨年をやゝ下廻つたが、好評のうちに幕をとじた。

**声なき声**

## 中食を三時間目後に

新年で改まつた所で一つ新しい改革をやろう、それは三時間目終了後中食をしようと云う事である。皆さん御存じの様に三時間目終了が十二時十分である。これから食事をするのは決して早くないばかりでなく一時十分から食事をするのは遅すぎると思う。始業が一時間おくれたから一時間朝遅く食べるから同じ事だということになるかもしれないが実際にそんなに遅く食べている人も少ないだろうし、朝、課外がある者は到底我慢出来ないのは僕だけではなさそうだ、したがつて三時間目終了後数分間で急いでかき込むのは実に衛生的にも悪いそこで三時間目終了後中食にすればゆつくり食べられるわけである。男生徒ばかりでなく女生徒にもそういつた人を見かける様になつた現状を考えるとこの様に校則を犯しても食べる様だつたら、いつその事三時間目終了後食べることにすれば校則を犯さなくても済むのではないだろうか、一考を望むこと切なるものがある。二年F生

**読書の指針　④**

## 乱読の効用

吉開和男

よく思うことだが僕のうすぎたない二つ三つの書棚をみてそこにほこりをかぶつて並んでいる書物のなんと雑多なことだろう、岩波文庫でゴーゴリやチエーホフのものがあるかと思えば、万葉辞典が黒の背表紙をのぞかせていたりする。また最近完結した岩波講座「現代思想」がれいれいしく本箱に赤の活字をみせて並んでいるし、日本資本主義研究の三大書といわれる「分析」「発達史」「社会の構造」が誇らしげに片隅を占拠している。こうしてみるとまことに博学にみえる。ところで本職の地理や歴史のものになるとほんの教える程しかなく、せいぜい「世界歴史事典」や「郷土研究講座」がま新しいまゝで眠つているにすぎず、一体おれはこれまで何の勉強をしてきだのかと疑つてみることがしばしばである。

しかしこれらの書物をみるとそこにはやはり思い出の一つ一つが秘められているように思う。カントやヘーゲルの飜訳書が難解だからといつては、わざわざ原書を買い求めて辞引と首つぴきで一人悦に入つたある時期。ゴーゴリの「検察官」にめつぽうひかれて、それからはロシヤ文学に魅入られて一かどの文学評論家気どりになつた頃、万葉乙女の心意気に感激した一時期「善の研究」や「三太郎の日記」等を書写しで暗記したのは勤労員中の寄宿舎であつたと思う。八幡製鉄の工員さんで本きちがいと称された人が、「好きなものがあつたら持つて行きなさい」と本箱を解放してくれた終戦直後のあの感激はいまも忘れない。終戦後といえば、それまでの歴史学や思想の根本的清算を思い立つて、マルクスやプハーリンのものを読み耽つたものだ。

これらのどの時期の、どのような書物についてみても、共通していえることは、言葉を知ることの喜び、むつかしく言えば概念を把握することへの法悦とでもいつた種類のものであつたように思う。それが血となり肉となつて生命を支えるまでに至るにはまだ余程の期間が必要と思うが、青年時代にそうした経験をもつことはかけがえのないことだと信じている。よく車中などで中年の人が静かに書をひもどいているのを見かけたりするとその人の人がらがしのばれて暖い雰囲気を与えてくれるものだ。

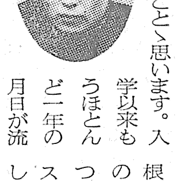
×　×

最近のように雑務に追いまわされて「本格的」学習のできないことをかこつようになると、ときどきおれもこころあたりで自分の学問をもたねばならぬと思う。そういえば僕も「而立」の年を二つ越えた。いつまでも雑学めいたあれこれに思いまどわず、たしかなものを求めてライフワークといつて大げさならせめて「そのことならあいつに聞け」といわれる位のことを手がけたいものと思うようになつた。だが考えてみると僕がこんな反省をするようになつたのもいわば学生時代から現在までの「乱読」のおかげかもしれない。ほこりをかぶり、虫の食つた古文書をときほぐすことが学者的使命のすべてと割り切つて生涯研究室にとじこもるのも生きがいなら、折にふれ、人の世のあれこれについて思いめぐらし、書をよむことでそれへの解決のよすがとするのも人生というものだろう。最近あることから「三太郎の日記」を買いこんだ。絹表紙の文庫版から、岩波の哲学叢書本、それに今の普及版と、とりかえること実に三度になる。本の体裁と活字の大小は違つても内容を受けとる心はときどきの環境と境遇を異にしながら同じである。いわば「至純なるものへの憧れ」といつたものが底流にあると思う。おはづかしながらちかごろ音楽に関する二、三の書を読んだ。概念を追うことの虚しさにぐさりとあいくちをつきさゝれたような衝撃をうけたものだ。

×　×

今の高校生にとつて現実はきわめてつらい。高校入学の日から、大学受験と、就職への心がまえを強制される。それはそれなりに大切なことだし、その試錬をのり切ることによつて生涯かけて自分のよりどころとなる信念を樹立することもできる。だから僕は無理して読書せよとは言わない、しかし単語をおぼえ、数学の一題をときおわつて一息入れようとする時側になにか心の糧となるような書物をおいておけ、そしてその一行でもいいから眼を通してみよといいたい。それから書物のよりごのみをしないでほしい。若いうちに色々な種類の書物を遍歴することのなかから、自分にふさわしい分野を発見することが望ましい。そしてなにか自分の専門とし、あるいは決定的にそれだけを信奉するようになつても、他の諸々の書物は決してマイナスにはならないものだ。いうなれば、乱読の過程はその人の心の旅路を回想させてくれる記念碑なのだから、またそれほどに書物のわれわれに提供してくれる世界は広く、深いものだから。「乱読の効用」としたのもそんな漠然たる感じからである。

**先輩からの便り　③**



## 九大の印象

### —名古屋の友への手紙—

九大教養部一年　元道壽雄

M君。新しい年を迎えましたがそちらは相変らずお元気のことゝ思います。入学以来もうほとんど一年の月日が流れました。昨年の今頃は二人ともものんきものだといつて随分叱られたものだつたけど今ごろは後輩の皆があれと同じような苦労をしているのだと思うとなんとなくなつかしいような気持になりますね。

印象といつても、それは入学当初のように新鮮なそれでなくもうずい分色あせたものになつていますけど、でもかえつて正しい批判とか紹介とかいつたものが出来るような気がしますから。

入つた初めの中は、いつかも云つたように、自由に解放された生活に早くなれたいと思い、高校生活からの反動もあつてか自由に勉強し、自由に活動の出来る生活に非常に魅力を感じ、全てが新しく生き生きと目に映つたものでした。しかし、しばらくするうちになにか、高校時代にきいたのとは違つたものを感じはじめて来ました。それは君の大学でも同様でしようが、どの学生に限らず、なんとなく覇気に乏しいような気がするのです。勿論、旧制高校時代とはもう程遠いのですし社会の構造も感覚もあの当時のような風俗をゆるしません。けれどもなんとスマートなこと。それは服装だけでなく行動、思想にまであらわれているような気がします。

もうずつと先に、O先生ともお話ししましたが、学生同志のより集つての議論風景などあまり見られません。それも行為の根底からそういつた純粋な思想の発露、爆発を退りそけてしまつているようなのです。人間のスケールがずつと小さくなつてしまつたんだなと思わざるを得ません。その一つの現れでしようか。近頃九大内部の学生大会などでも発言者はほとんどいず出席者も定足数に満たないために流会になつたことさえ再三です。すぐ考えられることですけど、大学をたゞ就職の足がゝりとだけ思つている生徒が大部分だとしたら、今の世の中でごく当然だと思うけどやはり淋しいような気がしますね。

こんなことばかり書くと、お前だけいやに深刻ぶつているのじやないかと言うだろうけど、そういうわけではありません。このようことを除いては、やはり〃九大よかとこ〃なんです。

広い教室の中で法律の話をきいてせつせとノートする。そしてそれを帰つてから整理する。その中に、その教授の出身地である朝倉地方の方言がひよいと出て来たりするのもたのしいものです。休みの時間にみじかくかつた芝生の上に、ぐるつと輪をかいて、恋愛論にうんちくをかたむける者、それを真面目な顔をして聞いているもの、みんなどこかである風景なのにそれががくゝしい気持がして来ますね。また教養部の近くには大濠公園があつて、一寸した憩いの場所としては最適です。こゝでは九大学内のレガツタが毎年ひらかれていますし、昨年も末になつてありました。

また、開学記念祭や文化祭、運動会などは毎年やりつけているとは云え、やはり大学でないと味わえない面白味がありますね。

こう書いてくると楽しいことは皆、遊ぶことばかりだなと笑われそうですが、そうでもありません。九大といえば旧帝大の一つ、学生の一人一人はやはりほこりをもつています。それだけに勉強の仕方は非常なものです。休み時間に大声で駄べつていても、たとえ次の時間が休講の時でも図書室で辞書をめくつています。そのような勉強の中の休憩でこそ、本当に楽しめるんだということが近頃実感として判つて来たような気がします。戦前から終戦直後をへて、学生のあり方もずつと変つて来ています。私達の時代が丁度その過渡期のようなものなのでしよう。何となく今まで話しに聞いた書生タイプとは違つて来ているようです。私も君もきつとその例にもれないでしよう。何んといつても、教養学部に入つたばかりの私には、九大のスクールカラーといつてもこれといつて具体的なことはかけません。たゞ印象に深くのこつたことだけ今日は書きしるすにとゞめました。でも、もう半年して学部に進むころには立派な(？)学生らしい学生となつているでしよう。名古屋は如何です。ヨツトから離れて淋しいとのことですが、来年の夏もまた腕くらべと行きましよう。それでは後期の試験も間近いことですし、躰に充分気をつけて精々勉学にはげまれますようお祈り致します。

さようなら。

創作

## 「女」

二ノ七　溝上雄城

範夫の行きつけの店は五町と隔つておらなかつた。石垣のたち並ぶ坂道を下つて、公園を左に折れると、ひつそりとした昔風の出店がならんでいる。そこから右にまつすぐ行くと、繁華街に出るが、曲がらないで一寸行くと、〃ホルモン料理、西洋軒〃と古びて黒ずんだ看板のかかつた店がある。店の中は電気が暗く、赤や青の紙がべたべたと壁にはりつけてある。客はそんなに多くはないが、狭い土間に配置された椅子には、くたびれたオーバーの男や、短かいひざのふせたズボンをはいている子を連れた中年の女や、若い善良そうなアベツクなどが、肘をついたり、足を小きざみに動かしたりうすい色の茶をすすつたりしてホルモン料理を待つている。

「いらつしやい」範夫が右奥のあいている椅子を見つけて腰を下すと、齏の粉をまぜていた三十がらみの女が顔をくずして近寄つて来た。範夫の顔を斜めに見下し、無造作にお茶をついで

「何にするの」と聞いた。

「うん、豚肉のはいつたお好み焼きがいい」範夫は色のあせた紀華模様の湯呑みをとり上げて、茶を一口すすりながら注文した。女は大きくうなずいて、鉄板の上に粉をとろつと流した。ジユーと音がして、白い湯気がまつすぐに上がつて天井にぶつかつた。あたたかい、腹にぐうつとくるいい臭いがひろがつて、鉄板の上では油のはねる音や野菜の煮える音がさかんにはげしくなつた。

女は色の白い脂肪ののつた手で器用に野菜を放りこんだ。えりあしが電気の下でほの白く光つて、手を動かすたびに、肩から胸にかけて白い線が動いた。範夫は女をじつと見つめながら、茶を無意識にすすつていた。

「学生さん、コケツトてなんやろうね」長いまつげの奥の瞳を大きく動かしながら女は範夫に話しかけた。丸顔で、ふつくらとして口もとに愛敬のある顔を右に少し傾けながら、女は返事を待つ様にじつと範夫を見つめている。鉄板から上る湯気が女の顔を濡らして一層なまめかしい感じを与えている。

「コケツトつて……なまめかしい女——」範夫はふと口をつぐんだ。女の肩の白い線がかすかに動いた様に感じたからである。すると、女は範夫を見て、さもおかしそうに、歯を見せて笑い始めた。

「ハハハ、さつきのお客さんがねわたしに、コケツトだつて……私フフフ大学生だつたけど、あたし意味がわからないからただありがとうございますと頭を下げといたけど……」

女は珍しい話を聞いた幼児の様に瞳を輝かせていた。笑つた顔がますます美しく感じられた。あごがひよいとしやくれている、範夫は女を本当にコケツトだと思つた。

女はお好み焼をよいしよと裏返して範夫の前においた。手が驚くほど白い。範夫は女の顔を見上げた。女は笑つている。暖かい実に優しい笑い顔である。範夫はあわてて下をむいた。無遠慮に女の顔を見つめたことが恥ずかしくなつたのである。

女は範夫から離れてむこうへ行こうとして、「学生さん、お茶はいれて飲んでね」といい残した。範夫は女の顔を見ながら、うん、と素直に大きくうなづいてみせた。女は会釈して離れていつた。しかし範夫は女から目をそらせないで後姿を見つめていた。女は入口近くの男の客に愛敬のいい顔をして話しかけて行つた。男の客は変な笑いをうかべながら、なにかと注文している。女は頭を下げてちらつと範夫の方を見た。範夫は女が美しいと思つた。すばらしいと思つてもう一度見ると男が女の尻を撫でているのを見た。〃不潔だ〃範夫は急に嫌悪を感じて店を飛び出したのである。

## 石原裕次郎

皆さん、明けましてお目出度うございます。

なんて、固苦しい挨拶は止めにして今年は、昭和九年生れ〃戌年〃のボク石原裕次郎クンにとつては、まさに〃オレの年〃なんです。

去年の十一月三日、人工衛生第二号が打ち上げられ全世界の話題を集めましたが、それに乗り込んで、宇宙旅行の先駆者として一躍〃オンナ〃をあげたミス・ライカ……

南極探険隊とともに、大活躍を続けている樺太犬……数え上げに行つたら、キリがない最近のお犬さま株の上昇ぶりですね。

東京のわが家（といつても実際は水ノ江宅ですが）にも、血統書付のシープドツグを筆頭に四匹の犬がいます。ところが、この連中主人の水ノ江さんより威張つているんですよ。ボクなどがノンビリとコタツに入つていようものなら、この〃お犬さま〃たちに忽ち追い出されてしまうのだからやりきれません。でも今年は戌年、ボクとしても〃人犬同権〃を大声で主張出来るのでちよいと御機嫌ですね。

〃一年の計は元旦にあり〃などという言葉につられて〃今年こそは〃と人並みに考えてみたが相かわらず何も出ないようです。ワレながら……物体ない男ですナア……

強いて考えれば、去年は遂に生キズと一年中つき合つちやつたですね。それが必ずアルコールが入つていないときだから不思議です。今年は去年にも増して一生懸命呑んで、せいぜい怪我をしないよう心掛けるつもりでいます。

今年が〃戌〃年であるとともに、酒に明け酒に暮れるボクにとつては「シ」（水）に「酉（トリ）」即ち水鳥の年でありたいもの。勿論、毎年が「水鳥の年」であれば、文句なしに「オレの年」が続くですがネ……。

×　×　×

平和館御案内
TEL 2862 平和通り

15日封切
裕次郎の新しい魅力……
強烈なアクションドラマ……
日活スコープ総天然色
夜の牙
井上梅次・脚本・監督
石原裕次郎、月丘夢路
浅丘ルリ子、白木マリ

22日封切
週刊アサヒ芸能連載
井上友一郎原作
心と肉体の旅
南田洋子、葉山良二、安井昌二、中原早苗

近日封切
原作　原田康子
森雅之　野添ひとみ
白い悪魔
原作　石坂洋次郎
裕次郎、津川
陽のあたる坂道

謹賀新年
若松銘菓
最中
洞の海
御菓子の
松月堂
本町七丁目
電話四九〇六番

新しい年
新しい帽子
新しい学期
片山帽子専門店
丸柏前　電⑦4981

謹賀新年
本年もどうぞよろしく
お願い致します
石松書店
本町七丁目
TEL⑦2415

婦人服、紳士服、洋品
ホラヤ
本町銀天街　TEL⑦4650